燕石十種

夢浮橋附錄

五輯

七

特
イ普イ
679
50

特
1.4
679
50

宮内省圖書寮

燕石十種六輯巻七

爰保橋附録

江戸書肆 須東子輯

此巻紙は源川のふるあらんちの〜〜永代橋と
かく〜〜つまり〜〜時橋やふ世換〜〜ゆるちづ〜
〜ゆゑ秋すさそひ〜〜人〜〜ふ小雨ふの里く
じあやうきことのゝ世旦まの行ゝう橋の歳人〜
ゆりさまとうん〜〜胸つゞ中いら〜〜かたろ
〜〜ほの人れなすまきうくうんちの〜
又あやうきくいふちかるふしんちべき事と

見しその時の事ども書ぬきて連ねて一冊にし
て後のそのしるしにめ一冊にしるしぬ杏園の
うしろの花せまりてせしうぐいす雲のよりて其
まことにたしかなるかんん

春の屋主人

永代橋落雁

深川富賀岡八幡宮の神事は山王祭四のま
はりふつかはかりにて大毋衣の祭りのごと
名ゝ高きことなれ　然るに社再建のこと久
しく中絶せるがようやくもとのごとく成就
志ゝ是は今年文化四年卯の八月朔日のこと
なれば初りかはりのことなれば甚さかまちく
なりぬ　八日は雨ふりて延引し　十九日しき
なりぬやうて其日の朝は方よりさはく

へ移りしき所なりてそうん西おひしうしゝ中も
為て誘ひしゝ人々ちうふ郎ゝ立出て天かん
橋よりゝ郎之法の神輿を渡御まつりゝ
第壱の方へめぐりすを海れゝ永代橋ところ
まるゝ人りうん迄ハ私領の東より為ところより
吹ぬよ立る舟ゝ殿いつまも乗組殿ゝよ
樹色のはゝ袖きゝる為ゝ方名所捉ゝの船を
ゝて神輿を乗せもより高よりてゝ人ゝうとゝ
きゝ江戸ゝりのゝ西大ゝる此橋ところゝ事ゝれハ彩

しき人ゝ源川の地より初れハ所ゝの名西組より
祭りゝもあり冨吉町の方ハ祭りゝんゝ中ゝ
大川筋とゝふゝつきゝゝ山稲荷ところより通りへ出ん
ところゝ梯子橋田ゝゝゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
ハ橋ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
仲町ゝ為ゝ市社ゝ祭れゝ春つまゝの度ゝ
初為の供ゝゝゝる人ゝゝ為ゝ山王の為ハゝゝ
てよきゝ蛤町大ゝ西所中橋町ゝり皆川筋と
高橋へ移りゝゝゝゝゝ作ゝハゝゝ橋よりゝ

風をつゝやぐて多ふの祈り事をとなへて山うゝ門屋ハ
横町もなく洛集まれなる迄ハ行向のうゝこゝやといい
そゝ祝ようを祈りきるまたりとうん稼ぐ

此源川の多ふを一番のようゝ初番のきぐんといふ
あり外吳服寺つゝ多ふて浦鳴のぎゝ初番の武
者を海巡大工町をて頼光ゝ四天王大蛛の妻りの
金時のぎゝや

一番蛤町

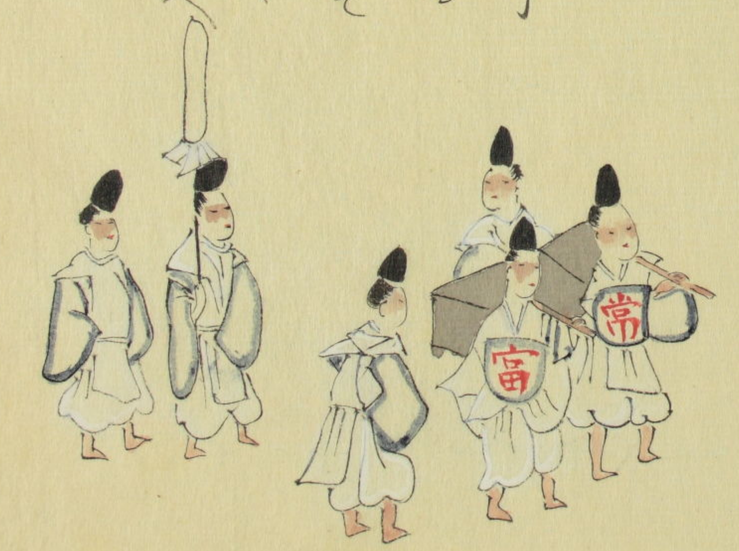
近江うゝき源内の多ふれ
四人仲町より蛤町へとけ多ふを
中ゝ石清水神事鉄砲大
内の多ふゝ中ゝの多ふ秋
葉山うゝうん事や

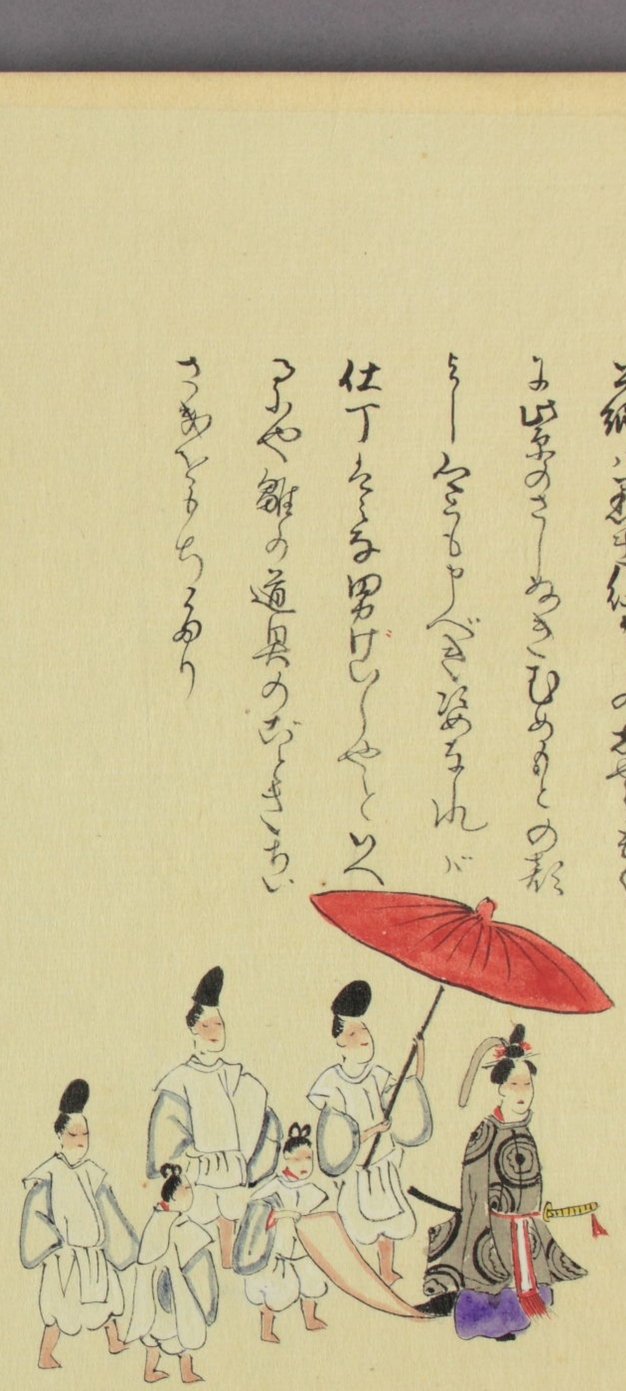
むゝうゝの多ふを等

度といふものをうりて是を附
ものの有もしき道具あるとこんを
ひさりつけ若いとのそろひ
の袋あるを是を持つ事〳〵
御ゑの覚改革中沙汰改の
ほあるを〳〵為変る〳〵を改
ものとしきこうざりものの車
をてゑ借をかり〳〵是を若ひ
者共勢揃出る事〳〵

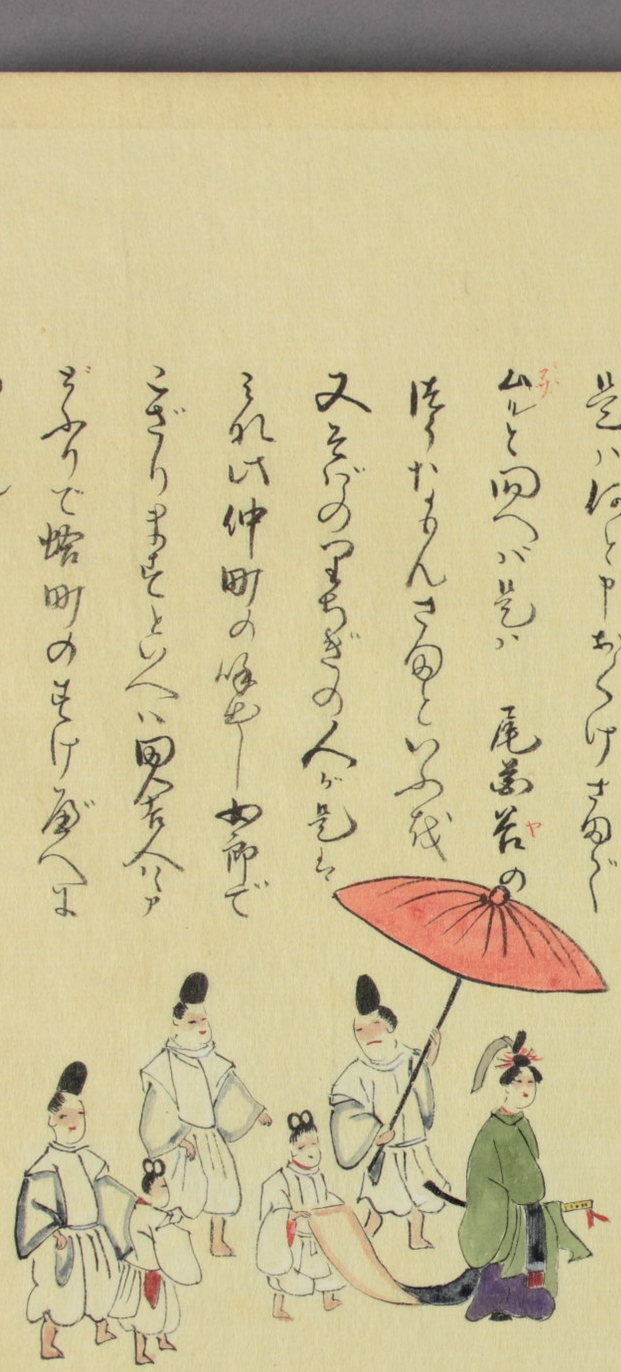
仲町補助

石清水神の借奉の行列竹
を高げ〳〵是をうるどの借ち
白鷺り上ゑ山行ちん金をあて
中又宮中ゑ鬢次富吉後をるど
吉吉の後〳〵おゑをいるの神へ
ものとをうり





之御ハ思ひ役ちの事ゝそく
ゝ山事のさゝめきひめとの新
ゝ一ゝ今もやべき姿ちれば
仕丁ちゝる男けしゝやとゝ
ゝ今御の道具のごときちゞ
さゝまゝちゝあり



四条ごのゝんあゝゝんゝてしも
ゝ見ハねゝとゝあゝけさ四ゝ
ゝ山と四ゝハ見ハ　尾張岩の
ゝ作ちんさ四ゝとゝ
ゝ又そゝのゝまちぎの人ゝ見ゝ
ゝれハ仲町の時ゝ　如師で
ゝごりまちとゝ人ゝ四条人ゝ
ゝごりで堺町のまけ屋ゝよ
ゝ出ゝれゝ

競馬四人

あてこすりがはく馬の
うけひきたり〳〵あり曲馬
あるもおかるるあり

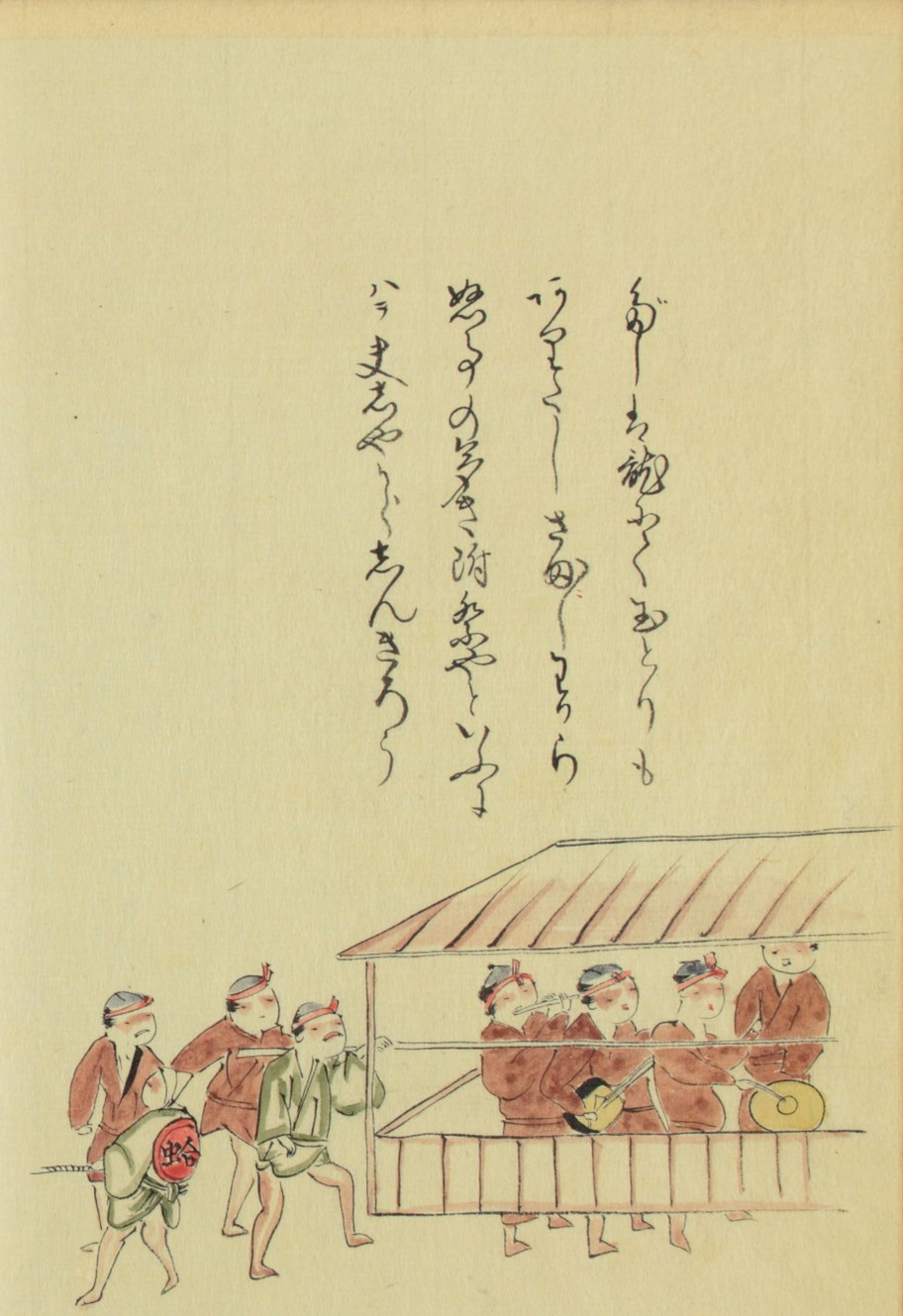
所作ありてつき
八幡の神事うと
ありへいけ馬かり
事はかの義の神ま
てハなのいがとろもはハ
まくらぐ姫のかるまい

蛤町

ちんきろ〜の車と

蛸の曳とのゝ雀たとり大
勢花やらくちんきろ〳〵を
能事のつとうえ〳〵ゑや様の
ぬりものの色ときこゑ色い新の
ゑまどうもよくてまとの様
とうの魚ちらゝ多もつまし

又能事とゝ懐と立〳〵ゆ
皆そでなる男さのそより
ゆり物ゆり居さり同きゆ
ちゝバたとうとん〳〵ゆきの
ほ袖きくりまゝ〳〵の
きくゑゝ方ゆまく流さり



蛤
蛤

八番　大路町　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かゝり書して[illegible]を置て

たる流仙組桝の[illegible]

さゝのおりゝ[illegible]

のるのあり〳〵小衣裳の[illegible]

たりて[illegible]

〳〵ときり

信太杭美賀郡

[illegible]

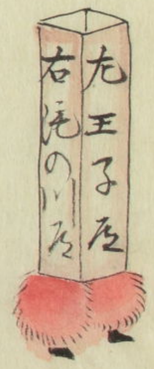
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

姫君の御くるまの御そばの
所司代殿　御そばきたるゆ
ゑ　武士たち　たまふるぞ

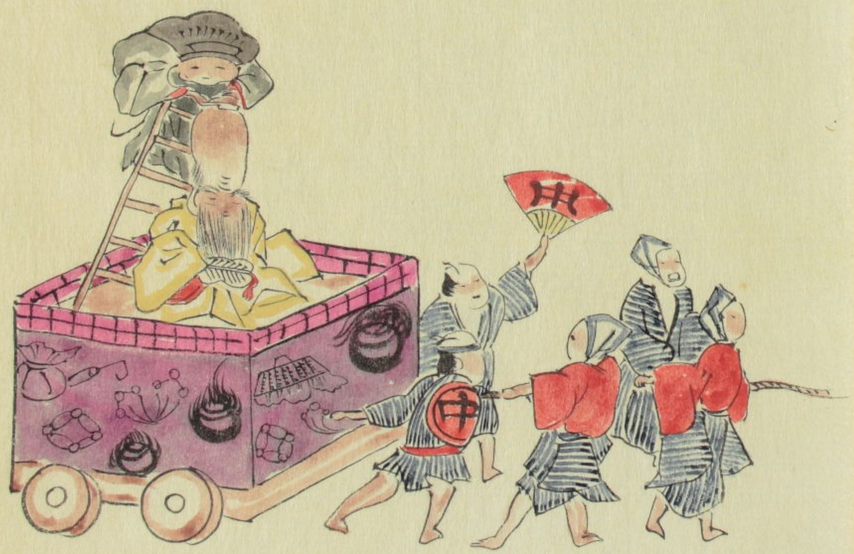
おとゝ〜ちゝ岩屋と云う男
中間小屋とておたつる男
初てからゝ〜ふつゝかなる
〜男女共ともつてきたり
いろのちゝ〜ぶつ〜ゝの傳
実西の方どりつまて帝蓋
自上下ゝきこゝ〜ゝ
似合さり

茶屋の小場ちゞ奴共こなり
ゝ〜野道をゆ〜ゝたもい入
いろの所ちゝ〜男新ち
奴のゝ西どりくゝごそ者
風ちゝくゝ西ゝのゝ
ろ〜

伊勢うら中嶋奥女中の風そ
く侍る実恵の恵とり供ふり
押ふるまて丈くの屋ふる
ふる義屋義の志ふてよくふり
うかく山のぬりもの

九番中路所

大津絵の曳物



いせあんと　かぶとおどりとゝふ
一やゝこゝろひの形ちにて平
知角出とゝふ事
かしらは位ゆゑ角出とゝ
ゝ出るゝはてきのとゝとゝ出る
の方出とゝ出る事の関ゝたの
ゝ事ゝ事ゝ事ゝ事ゝ事ゝ事
きふてゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝゝのゝんゝゝゝゝゝゝゝ

小薩

往

未

九番
中嶌

深川ハ世外ハ見るべきもなく人家海ハいろ
かゆるら大名鶴ヶ島系諸と役者のこハいろかて
稲ゝ多の面白しとき〳〵故見もうんとそのう
ら通り相川町へ出るうど中〳〵せまき人
ふてれしをまきたるやう〳〵橋ざハ迄来る
見るふ迄向地より稲ゝ東ハ蛮橋のうへふ
つきて深川ハ東らんを新人くたゝ右のうんうんふ
ゑしくとれらを中〳〵往来きうて佐賀
町の方へ行うるうど世筋も多ければ

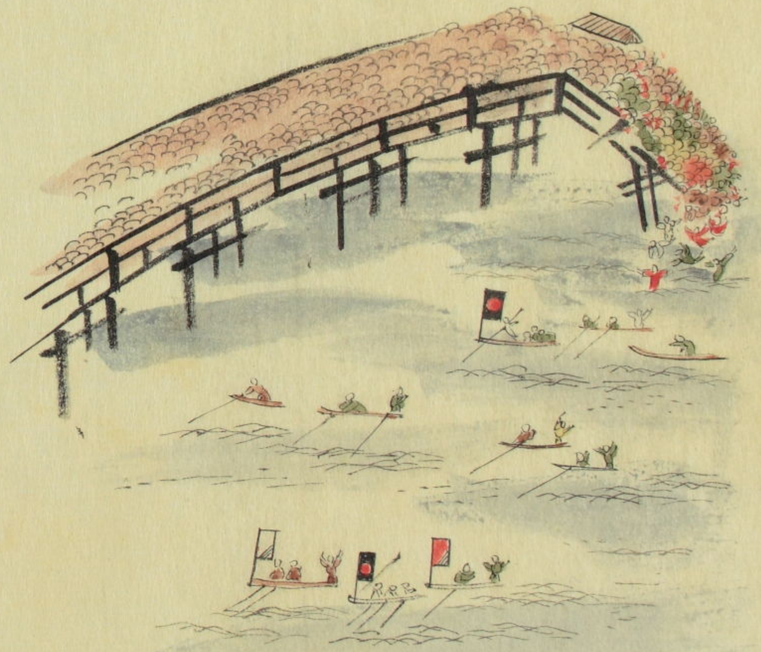
ゆくべくもいらず又橋のりくつ[illegible]
の戦相を神代の巻とうひて南新坂の家
なれど杉[illegible]おされて[illegible]さふるよ[illegible]
せば川岸ふを船ふて見物も多く又向地より
見物の人くせのせて通り来る舟のつ[illegible]
いつもこんのもとバもあれたのこ[illegible]ん[illegible]川岸ふ出
ちバ[illegible]ひて橋をつくりたるふ
人のふみ合ふ[illegible]く其中ふ幟ひらげ[illegible]
このかぢ[illegible]

ふ[illegible]ふて見物のこ[illegible]ん[illegible]たるを[illegible]と思ふ[illegible]
て小船をほうけて家川溝出て見るふ橋の杭
のふふゆ[illegible]ふ[illegible]ん見
へていあ[illegible]車よと見ひ[illegible]たふ船を
ゆくを桝[illegible]ふて橋のたもふ立居る
こんじ[illegible]一回ふ[illegible]ふつきて源川の方へ[illegible]
こんこなれバ西の方を人そくなくまぐらふ
こへ[illegible]読ふ川の中[illegible]
跡の方ふて大せんの人[illegible]

暫ありて、くるくるふかせんを
大きなる橋をたいて、[illegible]と[illegible]の中で
九人をうち板のかの武者のよう[illegible]入る人
千石ばかりの米の[illegible]入[illegible]のうんぞ
たたかう[illegible]うきたりとかりてくぐりの如く
人のくるかの人うきたりて水かの[illegible]入[illegible]
いきまくくそ多年もつぬう[illegible]岩かかる
舟ハうを漕出て引上げ又板を伐なんぬ
見わたつき流るとり上ぶ助るも[illegible]

の紙ぬも若さものおて せめて一人も助くべ
ふかぶ史助ぶよ[illegible]べーと[illegible]紙のべて武人迄
引上ーぶ其一人ハ知る人おて いとふーぶかぶ
今一人ハ芝道のやしーきこと いくど勝のおもなし
[illegible]ど水かよう[illegible]とうくみる間ぶ舟ぶ
[illegible]せざるもなくうぶ武[illegible]人もうんぶ橋の
引ぶ水かたつて[illegible]ぬもごくぞ有る
舟ぶ天蔵志[illegible]ちぶ[illegible]川岸かた人
多くえ居ぶ[illegible]ぶ

永代橋危難



△コリ

親戚ばかりなるべし如よいろ和漢ぐるやもとゑ
ほしー人おやこ さるるの志ばりおどし芝の人々
世ばかりかさねいざかりぬる人の知る人ハ大川
端角問屋山田の方と多のく変ふ志ばらくぬぎら
せ代よしー宿へも志らせやり世遠の条ら武三番
源川へわたりて孫ハいまゞ孫りも出さでさた
具ふ〜かざり立てを見るるも思ふ〜多の人々
を立ちさ〜ぎ乗ふ尋合ばくばんで家ぶを門ふ
立出て俄ふたりを訪もばりハの方も乙ふら

屋敷家へ立入りて今日の所ふぜかのうれ
ゑ我はしぬ後うこの知る人のうこく尋
ねどいかがあもうふのさわりあるとしいとうを
しうとうを

行てこそ彼の後引上しに男女死ぬ及ぶべきも
うくに後出あるとは引上しに男半沢ありしが
こ後遊小後出しに路京徳して行うしと
引上れたぐ志ゆくゆく男女我わうも老人

小児我を取とうくちらべ亜しとゆうの人く
尋ねることしてさ海くかく抱又ハ連行も
多うしこそ日ハ大橋も渡きく我とめ西国
橋のく後るうちなしば新ハ入ても把灯のゆき
最半ともちられ元聖世日ハ橋ちうき依賀
町小後の後和田志ちらハ月書ハ方宮落ハ後
使もとく後て門後ハ新ハ新ハ町中ハ鍋も他
我く當日より之新小至ても尋ハうて連行
しハ新ちらとハ後て引元しハ合ちも名家も

そ兎し事とて其合男女小男とも四百廿余人
と乗へし

其節舟ふ引上し知る人文蔵と後の剃ふらん
加ん水柳ふられてふ川へ流入て
のぼらんとすれども中〳〵手ごうもあらん
なれば合船ふらんかん云らくやと思ひも
ほどもなく橋の落るかと聞きふん者
一同手多とりてゆらのくやふ之へふ

とと云へくとして水ふ入うる多ふ地ふて溺死
船ふ乗つうんとし商ふも又人のそぐう法ふて
いく度の高ふ川流つしてやく舟ふ
乗りふし
橋町古家屋度蔵金兵衛と云ふ人母体
あと源川のゆうの方へ出て男ふ行しが
府芳沢市郎市と源し菓子の重箱と
あこら向の家老田ふつも云その桟敷ふ
ん乗ふ立出しう橋ふ流ふ乗しし

訪へ早速帰宅へ来り五つ時押さえ行
つゝ洲崎へ参り くるしゝ吹くるゝ事
甚し 夫より居もるかたしの所
八ツ時ふ変ぞくと云ふ合図やとて押
寄せさせ申さんと雨降しゝ来るべ
うつゆゝ おそうしかしらも資中をふぐ
らせくるしゝも行きまくぞやて有てあし
きつより多るやゝ 面白ばそれを取上げるる
ふ見ず 水ふ元より 折も多るらんかの五郎

ちぐの是仕居多り 夫より たくうの屋にて橋の
ふとりしゝ ふ深くも聞ふ五分居う 橋のこ示
人気なりとなく 和さぶくて 其後元とそま
ふ走て橋の下りに ふ我つきたるぶ 人影家を
さわぎ居る 家にて やうゝ人気地しくるの
ゆるりとふゝ 武ふ行のやふ いのち助る
事にて同所富屋金蔵 かるらまも記
ふ川氏に一方ゆゝの四友 ふて 代元の 文面
をそなられ 頂くつゝ 寿

抑去十九日之變ニ付御知らしき
ヲ伐ハ暗　伐　出候て去歳騎の事ニ京
御尋哉り哉ハ在京衆ニ而編なく候哉
之御所中出候の御所ニ別ニ律同盟京
在溺死を示すあらく沙汰致し候の甚
御出見て所出候御精りて早速可被伺
飲酬可有之専存じ相伺候處左
大變を有りの儘ニ御模し則ち深く
打驚危殆て機事御内心之不堪感慨

專存じ此ありし事大逆事者之歸
ハ旅所外も大變ハ不曾の儀列儀
ハ谷三別摩ハ唯ニ浪ハ永代稀ニて三大
變とも可有之ものも有りて武帝
ハ軍國なれバさのみ驚くべきにもあら
それ此度ハ太平讃楽し中驚それ
ろく候て慘むべきの
言諸同所て京中所ニさるもの
此段く成候と又千載の奇遇ニし

手枕

橋の名ゝたるきぬ代ゝんとうたもなゝ
たつゝ水のあられぬ世の中

維恵

所書として 平事也ゝ小 仕り申て 之 柳 我
面白く 行 奇ふよゝ たり 海そうゝ あり の
さいゝ 戎 世 も 多くあり 古事記 小 柳 蔵
天王寺 出張 せ 以 古原 ゝ 閑日 高橋 の
方 将ぐん せい 我 川 事 柳 の 小 縁 迫 ちらさん
ゝ 海 辺 の 橋 ゝて 柳 の 斗 器 小 ち 入 古原
堺さん ふ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

わゝたゝぐの水いゝそうつゝ
手 橋 おちて ちゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

今宵のこゝろのかぎりはさゝぬの神ぶりなり
其折ふし評議ありて州福も永代
橋の事野〻有り中州書のこゝろ
なり

海流海辺検使之時

為之橋〻多数百姓拾弐人八幡宮禮
十九ふし別まゝ元人数七百四十余人と知るべし

右別帳

永代橋さん

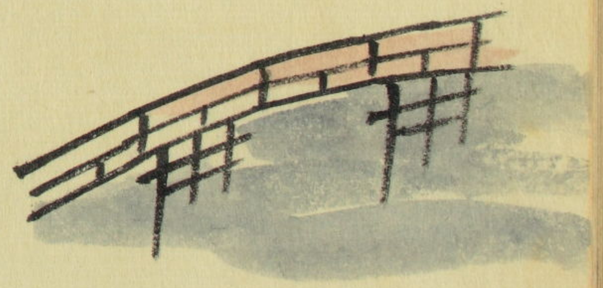
思物夏中平素忘死　寿よの小見

橋せんう卸せん
そゝさんかきん
橋廣川の死
水死せんさくの刹
人ぶ一ぃしん

同果のごゝ
ゆゝ〻亦〻
武士ぶうたぶ
死後の世常
ゆさんぶぐ〻

永代橋

回二月朝日町奉行山崎右衛門殿
御番所へ召出され島田治兵衛
渡めされ候ものしるし



永代橋うけおつて落成仕り申候
ゆえ御褒賞辰年
ものに橋を強固
なるべしとの御
ふれあらせられ
候しかるに
去て文政八
年十一月
廿八日より
人くの往来
ならしめる
ものなるべし
永代の橋
ありこれまで
なりし

文政六年辰
十二月

世書ハ江戸鎌倉河岸の隠家豊藩屋敷
姓田村
号春の道
まのあたりみしるかぎりなれて
その日ハ俳句一人のつゝ西行をくるる
なりもあるれも其日和あて参らんをゆきしを
ある国八橋をるまきて間部山の麓を
南ぶ女をこの国ハ山やらん人をさわぎて
ある岸に人くもれ行代のそ家
ぬるとふる秋さしく年の刻をちるに
ある人べしそのちも其日のこゝろもあるれ

和漢を出ようとて蓑のうもらとゝ名づけ
うは今世書に附属して南部文庫の蔵

文化甲戌仲夏之月　香花園

文久亭雪杉秋流賢人一過　佑東子